



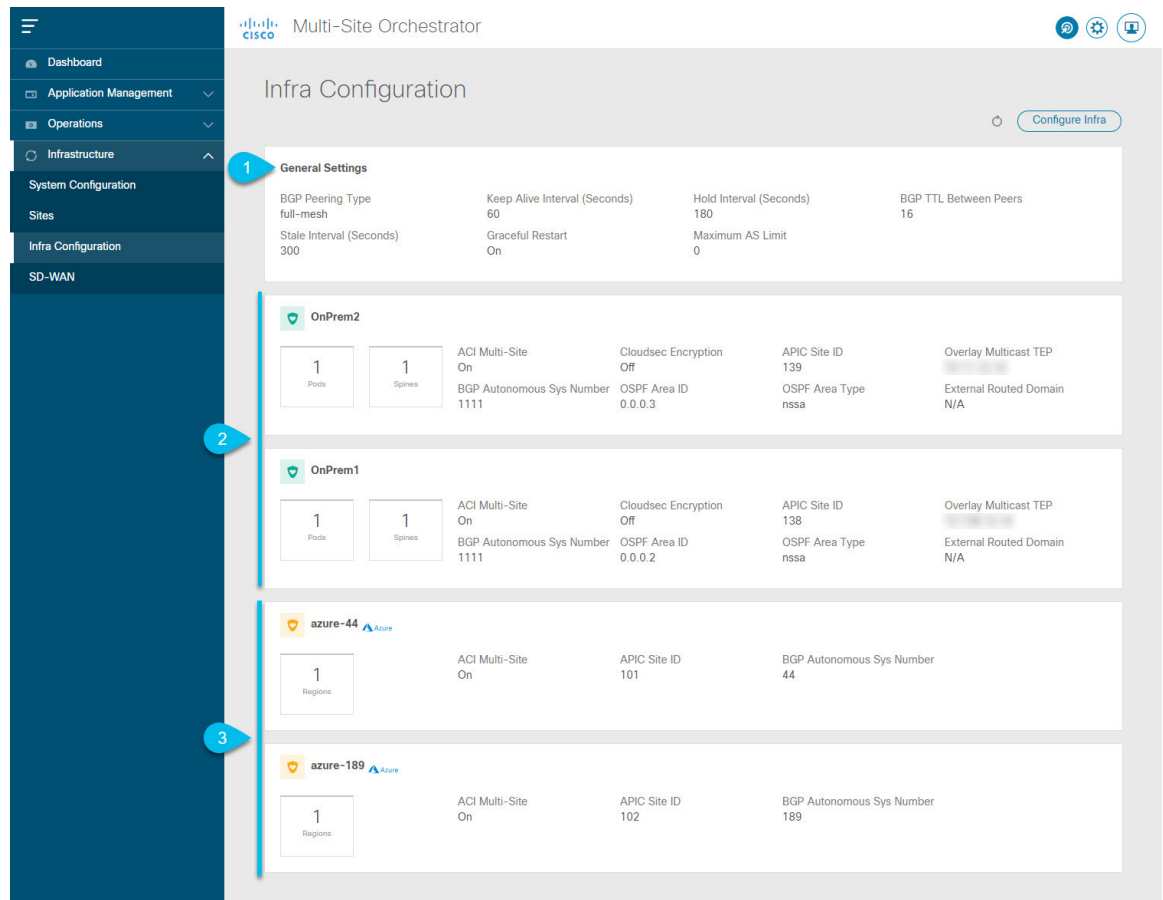
インフラ一般設定

- [インフラ設定ダッシュボード](#) (1 ページ)
- [インフラの設定: 一般設定](#) (3 ページ)

インフラ設定ダッシュボード

[インフラ設定 (**Infra Configuration**)] ページには、Nexus Dashboard Orchestrator 導入環境のすべてのサイトとサイト間接続の概要が表示され、以下の情報が含まれます。

図 1: インフラ設定の概要



1. **【一般設定（General Settings）】** タイルには、BGP ピアリング タイプとその設定に関する情報が表示されます。

この詳細は、後のセクションで説明します。

2. **【オンプレミス（On-Premises）】** タイルには、ポッドとスパイン スイッチの数、OSPF 設定、およびオーバーレイ IP とともに、マルチサイト ドメインの一部であるすべてのオンプレミス サイトに関する情報が表示されます。

サイト内のポッドの数を表示する**【ポッド（Pods）】** タイルをクリックすると、各ポッドのオーバーレイ ユニキャスト TEP アドレスに関する情報を表示できます。

詳細については、[を参照してください。Cisco APIC サイトのインフラの設定](#)

3. **【クラウド（Cloud）】** タイルには、マルチサイトドメインの一部であるすべてのクラウド サイトに関する情報と、リージョン数および基本的なサイト情報が表示されます。

詳細については、[Cisco Cloud APIC サイトのインフラの設定](#) を参照してください。

次のセクションでは、一般的なファブリックインフラ設定を行うために必要な手順について説明します。ファブリック固有の要件と手順は、管理するファブリックの特定のタイプに基づいて、次の章で説明します。

インフラの設定を進める前に、前のセクションで説明したようにサイトを設定して追加する必要があります。

加えて、スパインスイッチまたはスパインノードIDの変更の追加や削除などのインフラストラクチャの変更には、一般的なインフラの設定手順の一部として、[サイト接続性情報の更新](#)に記載されている Nexus Dashboard Orchestrator のファブリック接続情報の更新が必要です。

インフラの設定: 一般設定

ここでは、すべてのサイトの一般的なインフラ設定を構成する方法について説明します。

手順

ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 左側のナビゲーションメニューで、**[インフラストラクチャ (Infrastructure)] > [インフラの設定 (Infrastructure Configuration)]**を選択します。

ステップ 3 メインペインにある **[インフラの設定 (Configure Infra)]** をクリックします。

ステップ 4 左側のサイドバーで、**[全般設定 (General Settings)]** を選択します。

ステップ 5 **[コントロールプレーン BGP (Control Plane BGP)]** を設定します。

a) **[コントロールプレーン BGP (Control Plane BGP)]** タブを選択します。

b) **[BGP ピアリングタイプ (Bgp Peering Type)]** を選択します。

- **full-mesh** : 各サイトのすべてのボーダーゲートウェイスイッチは、リモートサイトのボーダーゲートウェイスイッチとのピア接続を確立します。

[フルメッシュ] 構成では、Nexus Dashboard Orchestrator は ACI 管理ファブリックのスパインスイッチと DCNM 管理ファブリックのボーダーゲートウェイを使用します。

- **[route-reflector]** : **route-reflector** オプションを使用すると、各サイトが MP-BGP EVPN セッションを確立する 1 つ以上のコントロールプレーンノードを指定できます。ルートリフレクタノードを使用すると、NDO によって管理されるすべてのサイト間で MP-BGP EVPN フルメッシュ隣接関係が作成されなくなります。

ACI ファブリックの場合、**[route-reflector]** オプションは、同じ BGP ASN の一部であるファブリックに対してのみ有効です。

c) **[キープアライブ間隔 (秒) (Keepalive Interval (Seconds))]** フィールドに、キープアライブ間隔を秒単位で入力します。

デフォルト値を維持することを推奨します。

d) **[保留間隔 (秒) (Hold Interval (Seconds))]** フィールドに、保留間隔を秒単位で入力します。

デフォルト値を維持することを推奨します。

- e) **[失効間隔 (秒) (Stale Interval (Seconds))]** フィールドに、失効間隔を秒単位で入力します。

デフォルト値を維持することを推奨します。

- f) **[グレースフル ヘルパー (Graceful Helper)]** オプションをオンにするかどうかを選択します。

- g) **[AS 上限 (Maximum AS Limit)]** を入力します。

デフォルト値を維持することを推奨します。

- h) **[ピア間の BGP TTL (BGP TTL Between Peers)]** を入力します。

デフォルト値を維持することを推奨します。

次の設定は、クラウドサイトのサイト間接続用です。

- a) **[OSPF エリア ID (OSPF Area ID)]** を入力します。

これは、以前の Nexus Dashboard Orchestrator リリースでサイト間接続用にクラウド APIC で以前に設定した、オンプレミス ISN ピアリング用のクラウドサイトで使用される OSPF エリア ID です。

- b) **[+ Add IP Address]** をクリックして、1 つ以上の外部サブネット プールを追加します。

このサブネットは、以前の Nexus Dashboard Orchestrator リリースでサイト間接続用にクラウド APIC で以前に設定した、オンプレミス接続に使用されるクラウドルータの IPsec トンネルインターフェイスとループバックに対処するために使用されます。

サブネットは、他のオンプレミス TEP プールと重複してはならず、0.xxx または 0.0.xx で始まってはならず、/16 と /24 の間のネットワーク マスク (30.29.0.0/16 など) が必要です。

ステップ 6 [IPN デバイス情報] を入力します。

後のセクションで説明するように、オンプレミスとクラウドサイト間のサイトアンダーレイ接続を設定する場合は、クラウド CSR への接続を確立するオンプレミス IPN デバイスを選択する必要があります。これらの IPN デバイスは、オンプレミスのサイト設定画面で使用可能になる前に、ここで定義する必要があります。[インフラの設定: オンプレミス サイトの設定](#) で詳細を説明しています。

- a) **[IPN デバイス (IPN Devices)]** タブを選択します。

- b) **[IPN デバイスの追加 (Add IPN Device)]** をクリックします。

- c) IPN デバイスの **[名前 (Name)]** と **[IP アドレス (IP Address)]** を入力します。

指定した IP アドレスは、IPN デバイスの管理 IP アドレスではなく、クラウド APIC の CSR からのトンネル ピア アドレスとして使用されます。

- d) チェック マーク アイコンをクリックして、デバイス情報を保存します。

- e) 追加するその他の IPN デバイスについて、この手順を繰り返します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。